

研究報告

保育者養成校における「子育て支援」の授業実践と考察

三 原 ミヨ子

Practice and consideration of 「childcare support」 classes at childcare training schools

Miyoko MIHARA

キーワード：保育者養成課程、子育て支援、授業実践、子ども・保護者理解

1 はじめに

現代の日本社会において、核家族化や都市化、共働き家庭の増加、少子高齢化に伴う地域のつながりの希薄化などにより、養育する保護者は孤立感や不安を感じ、家庭での子育てが難しくなってきたことを耳にする。また、児童虐待も年々増加し、貧困による経済的問題など、特別な支援が必要な家庭、多様な状況下にある子育ての対応が求められるようになってきている。このような社会情勢を踏まえ、「保育所保育指針」は4度目の改定となり、2018年3月から施行されている。子ども・子育て支援新制度の施行等を背景に地域での子育て支援に携わる他の機関や団体、様々な社会資源との連携や協働を強化することが求められ、「保護者に対する支援」から「子育て支援」に名称が変更された。さらに国は保育士養成課程の見直しがなされ、2019年4月より、「相談援助」や「保育相談支援」の内容が整理され、「子育て支援」の新たな科目を履修することとなっている。本学では、2年次後期に8回の授業計画に沿って進めている。保育士を目指している学生は、卒業後、子どもへの日常的な保育に加え、保育者として子育て支援を担うことになる。そのためには、在学中より子どもへの保育に関する相談や助言、保護者のサポートができるよう、また、専門職者としての知識や技術を身に付けていく必要がある。学生が、「子育て支援」の科目を学ぶにあたり、

事例問題の取り組みや演習等の授業内容は理解へと繋がったのか、実践したことを振り返り、分析したことを報告する。

保育士の定義（児童福祉法 第18条の4）

保育士とは、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう。

保育士の業務について整理する。

- ・子どもへの保育
- ・子どもの保護者への子育て支援
- ・地域の子育て家庭に対する支援

2 「子育て支援」授業の実際

表1 「子育て支援」の授業計画

| | |
|-----|---------------------------------------|
| 第1回 | 子どもの保育とともに行う保護者の支援 |
| 第2回 | 保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解 |
| 第3回 | 支援の計画と環境の構成 |
| 第4回 | 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 職員間の連携・協働 |
| 第5回 | 保育所等における支援 |
| 第6回 | 地域の子育て家庭に対する支援 |
| 第7回 | 特別な配慮を要する子どもおよびその家族に対する支援 |
| 第8回 | 子ども虐待の予防と対応 |

3 結果・考察

(1) 第1回：子どもの保育とともに行う保護者への支援

講義の初回目であり、保育士が行う子育て支援の特性の理解に関して、なぜ、保育所に子育て支援が必要になってきたのか位置づけや背景について考えることを実施。子育て支援を必要とする社会的背景に少子化がさらに加速し、人口減少が進んでいること。2023年度の出生者数は72.7万人、合計特殊出生率は、1.20で東京都は最低で0.99と1.0を下回り、最も高い沖縄県でも1.60、次いで宮崎県と長崎県が1.49であった。経済的な不安定さや共働き家庭も増え、仕事との両立や子育てを支えてくれる親族が近くにいない等、子育てに対する負担が大きく、社会全体で支えることが困難なことが課題としてあげられる。また、保育の専門職者として仕事に従事するにあたり、子どもの最善の利益と権利条約についての復習と全国保育士会倫理綱領第1項～第8項の説明を加え倫理の大切さについて理解を深めた。

保育者の倫理についての学び (学生の記述より一部抜粋)

| |
|--|
| ・保育者の倫理について知り、「私たちは～します」という形であることから、保育士の責任や自覚を持つための大事なものであると感じました。子どものことを最優先に考え、関わりたい。 |
| ・子どもや家庭の個人情報の扱い方などに注意し、プライバシーの保護をきちんと行う。 |
| ・実習で、保育者は子どもが納得できるような提案を出してあげるという関わり方を行っていた。子ども一人ひとりの気持ちを汲み取り、大切にしながら保育を行っていききたい。 |
| ・子どもの権利を守るためには、子ども主体で子どものことを第一に考え、寄り添う保育をしていきたい。そのために社会人の基本から身に着け、子どもの手本となるような言動を心がけ保育者としてのあり方を学び、これからの自分の保育を見つめ直していききたいと思う。 |
| ・子どもがやりたいという気持ちを尊重し、必要以上の力を貸さず、見守りつつ援助することを大切にしていきたい。保護者との対話を多くとり子どもや保護者自身の悩みを話しやすい保育者になりたい。 |
| ・職場の方々との連携を大切にし、保育者同士もしっかりとコミュニケーションをとることを大切にしたい。 ・保育者になれたからといって学びを止めず、様々な研修を受け、自分に知識や技術を多く身につけられるようにしたい。 |

(2) 第2回：保護者や家族のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的理解

第2回目では、子育てに対する保護者の思いやかわり方についての理解を深めるために、まず、

導入としてNHKスペシャル2016年1月31放送「ママたちが非常事態!？」最新科学で読み解くニッポンの子育てのDVDを教材とし、視聴した。学生は新たな知識が得られたこととして、子育てに孤立を感じる母親は7割。母親には共同保育の本能があること。出産するとエストロゲンが減少し、不安や孤立を感じやすくなるため仲間と育てるようになること。オキシトシンは愛情を深めるだけでなく、攻撃も高めるホルモンであること。育児中は1日中ストレスのかかる状態であること。夜泣きの原因は妊娠中の母体の負担を軽減するために夜間に起きることが多い睡眠リズムになっており、生まれてからもしばらくはその睡眠リズム

DVDを視聴して子育てについて考えたことや感想について (学生の記述より一部抜粋)

| |
|---|
| ・母性は生まれつきではなく、様々な経験を通して獲得していくということは、保育者も保護者も同じなのかなと思った。初めての子育てでなくても子どもの個性はそれぞれで、もともと母性があっても不安や孤独感があり、保護者の気持ちを理解したいと思った。 |
| ・共働きの家庭が多く、夫婦で協力して子育てをすることが難しいと思うが、母親ばかりに負担がかかりすぎているのではないかと思う事もある。 男性も育児休暇がとれる会社であつたら積極的に取ってほしいと感じた。 |
| ・夜泣きやイヤイヤ期など、自分のせいだと責めるのではなく、脳の発達だと考え、時間をかけわが子と向き合いたいと思う。子どもを褒めることで、笑顔になり、落ち着くため、褒めて伸ばす子育てをしたい。 まずは、自分の気持ちを落ち着かせてから子どもと関わっていききたい。 |
| ・脳科学で証明されていることを知っていることで、子育てに対する考えが大きく変わってくるのではないかと思う。 また、妊娠中に子育てについて知っておくと、子どもが生まれてからも気持ちが楽になることがあると思った。 自分なりのストレス解消法を見つけておくとよいと考えた。 |
| ・イヤイヤ期の子どもは自分の欲求を抑えることが難しいけれど少しずつ成長していく姿を見守っていくことも大切だと感じた。 また、自分の子どもだけではないことを理解したり、子育ての悩みを共有することで、お母さんが母親失格と思うことが減っていくのかと思った。 |
| ・夜泣きやイヤイヤ期は終わりが見えずにとっても大変だと思うが、科学的にみると原因があり、成長の過程で避けて通れないことを知って、今、不安や孤独感に悩む母親たちにもその事実を広く知ってもらうことで、少しでも楽になる母親がいると思った。自分が母親になった時にも、悩み込まず、頼れる人を頼りながら一人で育てようという考えは持たずに育児を楽しめるようになりたいと感じた。 |
| ・子育てに不安や孤独感を感じている親はたくさんいるが、それを相談できる場所や人は少ないということがわかった。毎日、子どもの登園・降園時に親と情報共有を行う保育者が様々な知識や技能を身につけておくことで、相談された際に適切な助言や指導を行うことができるのだと気づき、常に新しい知識や技能を身につけていけるように勉強しようと思った。 |

が続いていること。イヤイヤ期は前頭前野の発達
が未熟なため、目先の欲求を抑制できないために
起こっていることを知った等と学んだことをシー
トに記載していた。

事後学習シートの提出後、学生の気づきや感じ
取った記述内容を紹介し、全員で学びの共有を
行った。

(3) 第3回：支援計画と環境の構成

この單元では、事例をもとに保育所を利用する
支援計画の作成（個人ワーク・グループ活動）

目標①支援計画の作成を通して、支援計画の内容
や過程を実践的に理解する。

目標②支援計画の作成を通して、具体的な記録の
書き方を理解する。

家族のプロフィールを読み、ジェノグラムの作
成と子どもの状況、保護者の状況、課題を明確に
する。2歳児の対象事例の保育記録を読み、長期
目標、短期目標の立案と支援方法・支援内容を考
えさせる取り組みを実施。保護者が家庭での子育
てを行っていくうえで、どんなことに困っている
のか、課題や支援の必要性を考えること、短期目
標や計画立案に困難さを感じている学生がおり、
補足説明をしながら、ワークシートを作成。エコ
マップやジェノグラムの理解はできていたが、支
援の着眼点や具体的な支援方法を考えていく過程
では個人差が大きかった。個人ワークやグルー
プワーク時の巡回の際、学生の理解度を把握し、助
言を丁寧に行っていく必要があると考える。また、
「子どもに正しい生活習慣を身に付けさせるため
には」というテーマで、マンガラートを使用して
グループ活動を実施。家庭や日常生活においての
これまでの経験や実習の様子、保育士から伝えら

れたこと等、各自意見を出し合い、内容をまとめ
ることができていた。

(4) 第4回：社会資源の活用と自治体・関係機 関や専門職との連携・協働、職員 間の連携・協働

この單元では、社会資源とは何か、子育て支援
に関連する機関としてどのような施設があるのか
結びつくように事前の学習や専門機関に携わる職
種や仕事内容等をスライドにて説明を行った。地
域子育て支援拠点事業との連携や子育ての相談を
求められた時のどのような対応、環境づくりをす
るとよいか、ポイントとして、下記の4つ挙げら
れる。

- ①子育て親子の交流する場
- ②子育てに関する相談・助言の場
- ③地域の子育て関連情報提供の場
- ④子育てに関する講習の場

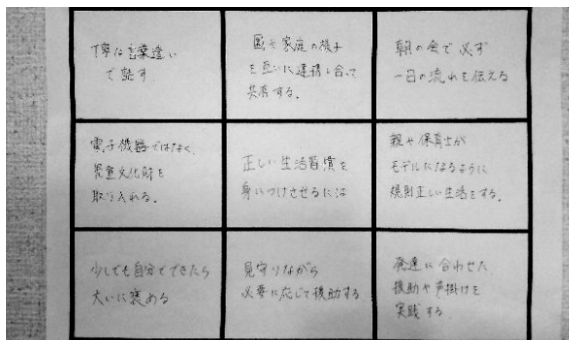
(5) 第5回：保育所等における支援

この單元では、保育所等に寄せられる子育て相
談の内容に関して、基本的な生活習慣に関すること
（睡眠・授乳・離乳食・食事・排泄）、発育・発
達に関すること（歩行や身体の発育状況、言葉・
社会性・性格・くせ）、環境に関すること（家庭
や地域）、育児方法（しつけや教育方法）など、
相談例を示して説明。

授業内容のワークで「保護者向け講座を企画し
てみよう」と学生にグループ活動を通して考えさ
せることを実践

まず、例として教員がスライドに下記の内容を
示し、説明する。

- ①家庭の現状（朝ごはんを食べてこない子ども
がいる）
- ②講師（栄養士）
- ③テーマ「朝ごはんをパワーアップ」
- ④講座のねらい：講座を通じて、保護者自身が
朝ごはんの大切さに気づき、朝ごはんを食べ
てくる子供が増える。子どもがより健康的な
生活を送れるようになり、保育活動が豊かにな
る



[学生が考えた講座]

- ・親子クッキング
- ・父親懇談会（ママ友で集まることは多いが父親も子どもと一緒に遊べるような簡単なおもちゃを一緒に作る）
- ・絵本作家による読み聞かせ講座
- ・リフレッシュできるようなヨガ講座
- ・親子でふれあい遊びや
- ・ベビーマッサージ

ねらいを考えていくことについては、巡回時、個人やグループへの助言が必要であった。

（6）第6回：地域の子育て家庭に対する支援

この单元では、地域における子育て支援の計画と子育て家庭の課題や保育者の特性を踏まえた保護者と子どもに応じたかかわりの理解を目標に事例問題による取り組みを実施した。

（7）第7回：特別な配慮を要する子どもおよびその家族に対する支援

この单元では、保育における気になる子への支援、配慮を要する子ども、保護者、障害特性の理解、保護者への対応の仕方について展開。

（8）第8回：子どもの虐待の予防と対応

最後の单元では、児童虐待の種類と特徴についての復習を行い、虐待と事故の見分け方、虐待の発生要因や虐待の対応における保育所の役割について説明を行い、ネグレクト（育児放棄）の事例を通して、子どもや母親の支援についてワークシートを用いて考える取り組みを行った。日々のニュースや児童相談所への通告も年々増加しており、虐待予防や対応について、意見や発言も多く聞かれ、学生の関心度は高かった。

保護者の共感的理解の面において、最終の授業前に家庭学習として、学生の親（母親・父親）へ幼少時の子育てエピソードを聞いてみること、インタビューを通して考えた事をまとめてくるよう課題を出し、提出させた（資料1）。子育ての悩みや不安は誰に相談されていたかという問いには、

親（実母・義母）、姉妹、親戚、友人、保育士、助産師、かかりつけ医の回答があった。保育所や幼稚園以外で子育て関連施設の利用はされていたかという問いには、子育て支援センターが、12%であった。児童館やすこやかセンター、公民館や

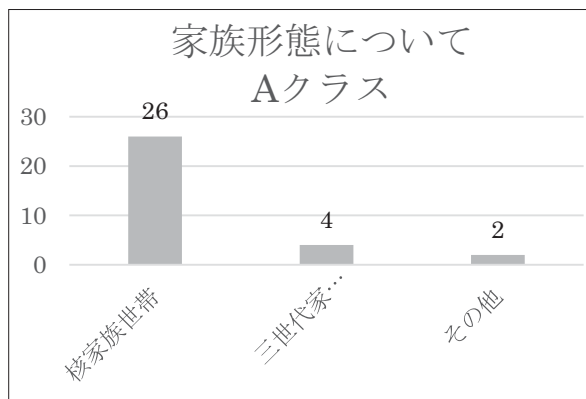
**事後学習 [インタビューを通して考えたこと]
(学生の記述より一部抜粋)**

| |
|---|
| <p>・母から話を聞いて、私はとても愛情を受けて育てられてきたのだと思いました。全力でサポートして支えてくれていたのだと思い、それは当たり前なことではないと思いました。子どものためにたくさんのことをしてくれてとても幸せなことだと思い、私も子どもができれば、たくさん愛情を注ぎたいと感じた。</p> |
| <p>・子育てを経験した親を母も頼って子育てをしていたことが分かったので、私も親に頼ろうと思いました。</p> <p>・園で子育て支援を行っている所が増えてきているので、私も積極的に活用していきたいと考えました。また、保育士の立場になったら、子育て支援を必要としている保護者の手助けをしたいと思った。</p> |
| <p>・子育ての相談を保育士にしていたことを知り、現場に出た際には、保護者の悩みや不安にしっかり耳を傾け、応えることができるよう知識を身につけたい。</p> |
| <p>・インタビューの際、母子手帳や保育園の連絡帳を見せてもらった。母は子育てについて、特に困ったことなかったと言っていたが、それなりに悩みはあったと思う。幼少期はたくさん遊びに連れて行ってもらい、たくさん良い思い出があり感謝している。将来、子どもを授かった際、一番に頼るのは母であると思う。悩むこともたくさんあると思うが、育ててもらったように子育てをし、子どもを幸せにしたい。</p> |
| <p>・成長の段階が他の子どもと異なっていたため、すごく苦労して子育てしてもらったことが分かった。</p> <p>責任を持って子育てすることが大切であり、夫となる人が、子育てに対して無関心な人でなく、いろいろな悩みや不安を分かち合える人と一緒にになりたい。</p> |
| <p>・子育て支援を利用していたと初めて知った。もっと調べると多くの支援体制があるはずなので、将来子どもを授かった時にはたくさん利用したい。そして、身近な人に相談をして、悩みを抱え込まないようにしようと思った。</p> |
| <p>・子育ては大変なことや嬉しいこと、喜びなど様々なことを知った。また、12歳離れた妹の時と私の時とは子育ての悩みや相談する人が違うことを知った。母は私を若くて産んだため、親しくできるママ友などは少なく、母子家庭のため、様々な面で大変だったことを改めて知ることができた。私が子どもを授かった際には、母親に相談したり、ワンオペにならないようにしたいと思った。児童館や子育て支援センターを利用し、子育ての不安や悩みなどを解消しようと思った。</p> |
| <p>・両親も子育ての難しさを感じながらも、多くの人と協力して育ててくれたことを改めて知った。1人の子どもにたくさんの環境での体験を通して、地域での子育てという意識が大切だと思った。</p> <p>・保育士としての責任と親としての責任を果たせるように園の子どもも自分の子どもも専門職だからこそできる関わり方や子育ての仕方をしていきたい。</p> |
| <p>・小さい頃からおしゃべりが大好きで、母が驚くようなことばかりしていたことを知りました。妹や弟ができる赤ちゃん返りをするのは知っていたけれど、自分も同じように妹にやきもちをやいていたことを知り、下の子に手がかかるようになるので、寂しかったのだらうと思いました。また、保育所以外の施設を定期的に利用していたので、子どもを授かった時も地域の子育て支援を利用していきたい。母のように子育てを楽しみながら子どもの成長を感じていきたいと思う。</p> |

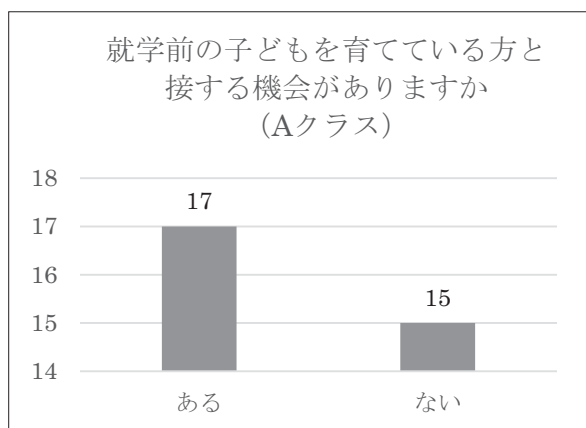
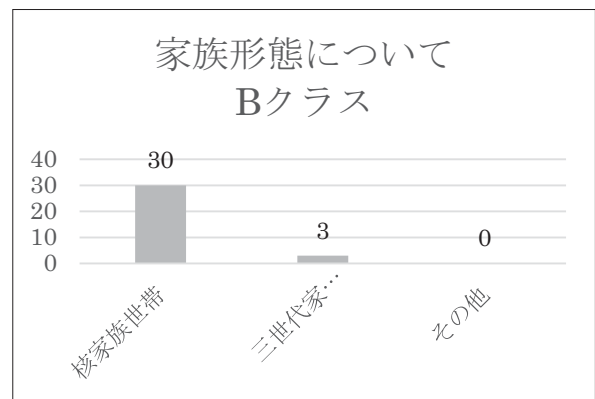
図書館、子育てサークルを利用されている家庭も数名いたが、保育所、幼稚園の入所施設利用が多かった。実際にインタビューを行い、子育てで苦労されていたことや成長の喜びなど聞くこともでき、育ててくれた親とのコミュニケーションの機会となり、感謝している学生の記述も多くみられた。

「子育て支援」授業実践後の学びの検証

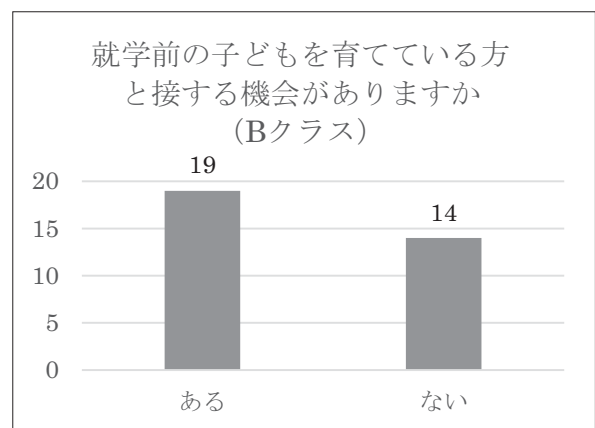
8回の講義終了後、学生（Aクラス32名・Bクラス33名）へアンケート調査の協力を依頼し、実施した。その際、回答は無記名とした。



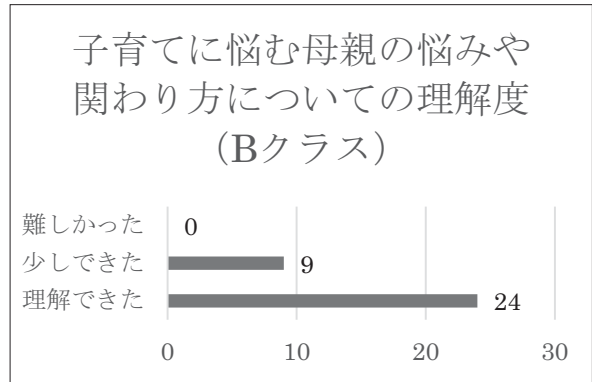
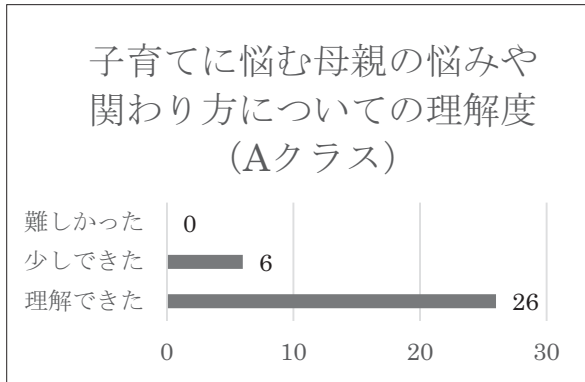
家族形態を調査したところ、祖父母と暮らしている三世代（大家族）家族は少なく、2年生はほぼ核家族世帯にいることがわかった。



就学前の子育てをしている方との関わりについては、親戚の子どもや近所の子ども、保育所でのアルバイト等で接する学生が多かった。

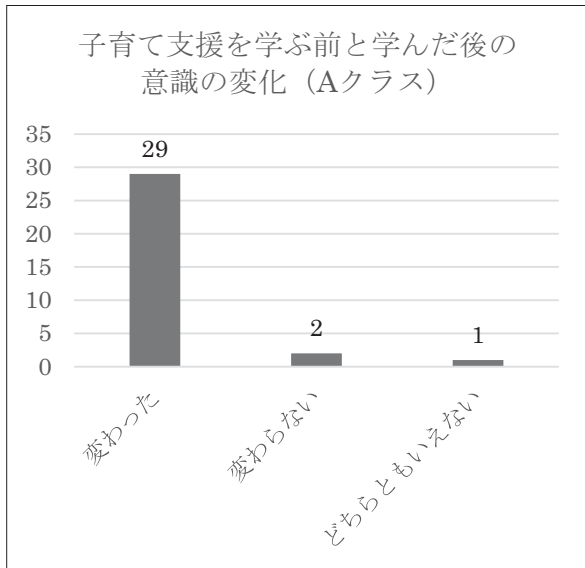


学生は接した中で、「夜泣き」、「ご飯を食べない」、「ミルクを飲まない」、「離乳食の進め方」、「成長や発育」等の悩みについて情報を得ていた。



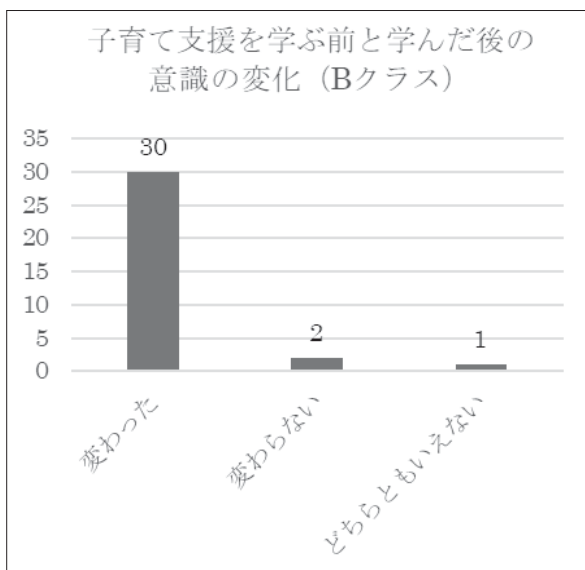
8回の「子育て支援」の授業を通して、学生の理解度に関しては、子育てに悩む保護者の支援、かかわり方を事例問題やペアワーク、グループワークを通して考えることができたと思われる。ジグソー教育や学生参加型の取り組みは効果があったのではないかと考える。

「子育て支援」の科目を学び、子育てや自分の将来像、家族や地域の支援、国の支援体制についての意識の変化がみられた学生が多く、授業を通して、知識が深められたと考える。けれども、学生が住んでいる地域の子育て支援センターや子育て広場などの施設や関連機関の調査、実際、子育て関連の施設見学へ行き、専門職種の方より内容や現状などを説明していただく機会を設けるともっと理解や関心が高まったのではないかと思います、授業を展開していくうえで、課題となった。



子育て支援の授業で学んだどのような内容が今後職場で活かせると思うか (自由記載)

- ・子育てをする親が、どのようなことで悩み、不安を抱えているのかを知ることができ、少しでも保護者の気持ちに寄り添いながら相談や援助を行うこと
- ・気になる子への対応や支援の仕方
- ・虐待のサインと早期発見、保護者への声かけの仕方やかかわり
- ・支援計画の作成やアセスメント
- ・保護者と向き合う姿勢
- ・たくさんの事例を読んで、そこからたくさん想像して、親や子どもにとってどのような要因があるのか、問題を解決する力を身につけた
- ・様々な関係機関を知ることで適切な支援につながる
- ・基本的な生活習慣を身に付けさせること
- ・特別な配慮を要する子ども、家族に対する支援で、障害の種類や特徴、対応の仕方



おわりに

「子育て支援」の科目を担当し、学生と共に学び合いながら、より良い親子関係づくりを支援するには、子どもにとって最も良いことを第一に考え、保護者が仕事や家庭生活との両立を図り、子育ての喜びを感じられるよう支援することの大切さを感じた。多様な家庭環境にある子どもや貧困家庭も増加し、子どもを産み育てやすい環境がもっと整えられ、社会全体で子どもを守り、保護者を支えていくには、どのようなサポートができるのか、学生に理解が深まるようさらなる授業改善に努めていきたい。検討内容として、授業後のアンケート調査や親への子育てに関するインタビューは行ったが、実際に子育て中の母親から育児に対する悩みや不安なこと等、現場の声を学生に聞いてもらう機会をつくり、保育者を目指す学生の学びの保証を行っていくことが求められる。

引用・参考文献

- 1) 西村重稀 青井夕貴著 新基本保育シリーズ19 子育て支援 中央法規出版 (2020)
- 2) 原信夫 松倉佳子著 子育て支援 - 「子どもが育つ」をともに考える (株)北樹出版
- 3) 伊能恵子著 「保育者のための0・1・2歳児の子育て支援ハンドブック 中央法規出版
- 4) 吉田真理著 生活事例からはじめる子育て支援 青踏者 (2019)
- 5) 田島美穂 平成29年告示 幼稚園教育要領保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (株)チャイルド社
- 6) 磯部美良 (2022) 保育者養成校における子育て支援教育の教授法に関する検討 武庫川女子大学大学院教育学研究論集第17号
- 7) 古川洋子 山崎典子2024 保育者養成校における子育て支援の学びを問い直す□愛知淑徳大学論集 福祉貢献学部篇第14号

資料1

事後学習

学籍番号

氏名

【子育て支援】

☆母親または父親にインタビューしてみよう。

1. 皆さんが幼少の頃の子育てのエピソードを聞いてみましょう。
(子育てで大変だったことや喜びや感動したことなど)

2. 保育所や幼稚園の施設以外で子育ての関連施設等、利用されていましたか？
(また、どんな遊びを好んでいましたか？)

3. 子育ての悩みや不安など、誰に相談をされていたか。

4. インタビューを通して考えたこと・感想 (将来結婚して子どもを授かったときの
子育てについて等々)